

# あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.  
**70**

2020 皐月・水無月

## 特集／2020年度方針 ——「道院の充実」



# 特集 2020年度方針——「道院の充実」

「金剛禪の充実」を目的に取り組んだ組織機構改革から10年の節目を迎え、この間、教区、道院、道院長、教化育成、本山という五本の柱を立てて、それぞれの充実を図ってきた。中でも道院形態の整備、教区講習会実施の定着化、僧階昇任の活性化に注力し充実が図られ、成果も表れている。2020年度は、道院活動の充実が図られるよう、さらに事業を展開していく。

道院の充実とは、門信徒数が増えることも一つではあるが、門信徒をはじめ、保護者や関係者が道院に集うことに喜びや価値を感じることに。また、道院長にとっては、その喜ぶ姿が見られるということに尽きるのではないだろうか。

## （僧階昇任の推進）

そのためには、道院長自身の研鑽が欠かせない。とりわけ、道院長である以上、金剛禪の教義（僧階学習）を学び深めることは最も重要な一つであり、僧階学習を通じて、布教の基本や方法を学び、金剛禪を世に広めていく必要がある。

## （教区活動の推進）

教区活動は、金剛禪を広めるだけでなく、道院間の交流を図り、また門信徒に教義を学ぶ機会を増やす取り組みとして、非常に有効な一つの手段であり、積極的に推進する必要がある。

## （次世代指導者の創出）

道院長の高齢化は年々進んでおり、後継者育成は組織にとっての喫緊の課題である。

この課題を解消するために、今年度も「次世代ネットワーク交流会」の実施を含め、道院長間の交流の場を創出していく。

## （地域のコミュニティとしての道院）

### ／新たな輪袈裟の活用

道院には、地域に開かれたコミュニティとしての可能性があり、その役割を果たすことが新たな賛同者を生み、結果道院の充実にもつながる。また新たに制定された輪袈裟を活用して、金剛禪の道院としての宗風を部内外にさらに広げていきたい。

## （修行システムの点検と再構築）

道院での修練をより充実したものとすするため、少林寺拳法の修行方法を研究し、人間完成の行につながりやすい修練の在り方を提案していく。

## 1. 僧階昇任の推進

「布教は教団の生命線」といわれますが、教団の第一線の布教者である道院長の積極的な研鑽が、布教の力につながります。近年、中導師から大導師に、あるいは大導師から少法師に昇任する道院長が増加傾向にあることは、道院長の布教に対する意識の向上の表れといえますが、その一方で、なかなか昇任に向けた取り組みが進んでいない方も見られます。現在は、中導師や権大導師の方には、道院長心得として道院運営をお任せしています。しかし、正規には大導師以上をもって道院長であると定められています。

大導師になるための学習には、布教についての科目があります。道院長に

- 「道院の充実」
1. 僧階昇任の推進
  2. 教区活動の推進
  3. 次世代指導者の創出
  4. 地域のコミュニティとしての道院
  5. 新たな輪袈裟の活用
  6. 修行システムの点検と再構築



2020年2月に本山で開催された僧階特別講習会第三次

なるには、布教の手順や在り方、現代社会における布教の可能性などについ

て学んでおかなければなりません。布教について学ぶことが、道院の活動の在り方の点検と、その質の向上につながるからです。そのため、大導師以上を道院長資格の要件として定めています。本山としては、全員が一日でも早く正規の道院長として布教に邁進<sup>まひん</sup>していただけるよう、昨年度は中導師、権大導師の道院長心得を対象とした「僧階特別講習会」を4回開催しました。この講習会を通じて、布教の在り方や教義の理解を深めるとともに、僧階学習を継続して行っていたいただきたいと考えており、今年度も引き続き「僧階特別講習会」を実施します。そして、受講された方々には、大導師への昇任と、積極的な布教活動を展開し、道院の充実を図っていただきたいと考えています。

## 2. 教区活動の推進

都道府県教区や各小教区での活動も活発になり、昨年度、全国で開催された本山公認教区講習会は、地方教区開催を含めて25回。また、県教区での教区研修会は45回開催されました。ただ、残念ながら小教区研修会については、2018年度より減少し、79回に止まりました。県教区や小教区が主体的に行うこれらの取り組みが、すっかほり定着している教区がある一方、ほ

んど開催されていない教区もあります。道院を充実させるためには、金剛禪の教えを深め、広げることが必要不可欠です。このため、本山としては今年度、本山公認教区講習会において道院長を対象としたプログラムを盛り込むとともに、道院長に対し積極的に参加を呼びかけます。また本講習会を、全都道府県で毎年最低一回開催することを定着化できるように推進していきます。各教区で講習会や研修会を開催していただくことで、教義の学習機会が増え、門信徒が教えを理解するとともに、日常生活で教えを実践するモチベーションの高まりにもつながります。門信徒の教えの実践は、金剛禪の布教に直結します。また、これらの行事への参加は、門信徒の僧階の昇任にもつながりますので、積極的な開催をお願いいたします。



金剛禪の教えを深め、広げるための本山公認教区講習会

## 3. 次世代指導者の創出

道院を充実させ、組織を充実させるためには、次世代の指導者を育成することが非常に重要であり、喫緊の課題でもあります。

このため、昨年度から「次世代の育成制度やネットワークを検討・推進するプロジェクト」(通称:次世代ネットワークプロジェクト)を設置し、次世代の指導者はもちろん、現役道院長の交流が図れるネットワークづくりを展開しており、今年度もさらに進めてまいります。



具体的には、11月7日(土)～8日(日)に第2回目となる「次世代ネットワーク交流会」を開催します。また、「絵本で広げよう金剛禪プロジェクト」の取り組みを通して、絵本の読み聞かせに限らず、さまざまな取り組みで子どもの自主性を育んでいる道院に、その指導内容を参観させてもらう機会を全国5～6か所で開催します。この参観を通して指導技術の共有化を図るとともに、道院長の横のつながりを育み、次世代の指導者が育ちやすい環境をつくります。なお、この取り組みに関する募集の案内は、別途お知らせします。



多くの次世代指導者の交流が図られた、昨年の「次世代ネットワーク交流会」

#### 4. 地域のコミュニティとしての道院

本山では昨年度より、一般の方が金剛禪に触れる機会を創出するために、「健康坐禅会」を実施しています。この坐禅会は、月に1回、土曜日の早朝1時間を使い、参加者には、鎮魂行の一端を体験する坐禅と、法話を聞いていただいています。



本山一般開放「健康坐禅会」

広さにかかわらず、どこでも実施が可能です。道院を門信徒のための修行道場としてだけでなく、いろいろな行事を通じて地域におけるコミュニティとしての役割を担っている道院もあります。このようなコミュニティとしての役割を担うことで、結果的に金剛禪がその地域において認知され、新たな賛同者が得られるきっかけともなっています。

また、これらの取り組みを、SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど）を活用し積極的な広報につなげることで、さらに道院の周知性は高まります。ぜひ、道院で実施を検討してみてください。

#### 5. 新たな輪袈裟の活用

今まで輪袈裟は、僧籍編入した布教者（僧侶）にのみ授与され着用が許されていましたが、このたび、僧籍にない門信徒も着用できる輪袈裟を制定しました。

この輪袈裟は、門信徒をはじめ、保護者や法縁者などの道院関係者が金剛禪の儀式に参列する場合に着用が可能です。また、本輪袈裟を着用し、儀式に臨んでいただくことで、儀式の雰囲気向上させるとともに、金剛禪の宗風の理解を部内外ともに広める一助に

なればと考えています。積極的な活用をお願いいたします。

※新たな輪袈裟の頒布、使用方法の詳細は、2020年3月5日付の金剛禪通達をご覧ください。



新しい輪袈裟



#### 6. 修行システムの点検と再構築

金剛禪の主流は易筋行（少林寺拳法）であり、少林寺拳法は三徳兼備（護身練胆、健康増進、精神修養）の法です。しかし、科目表に則（のっと）っていても、その修行の在り方は、指導者によりさまざまであり、三徳を得るための修行法

の検証や研究もまだ未開の部分を残しています。そこで今年度は、人格改造・人間完成につながるための修行方法について、さらに検証・研究してその成果を共有することで、道院での修行がより充実したものになるようにしていきたいと考えています。

まずは、運動学的な見地でデータを採取するなど、具体的な取り組みを進めていきます。

#### 終わりに

新型コロナウイルスの影響で、昨年度末から今年度の初めは道院活動に制約がありますが、これから道院・教区・本山挙げて今年度の事業を進め、充実した道院、そして教区にしてまいります。

#### ◆お知らせ

●退任（2020年3月31日付）

・責任役員：須田 剛（定年）

・総代：竹田 則幸（定年）

柳川瀬一美

川端 哲

●就任（2020年4月1日付）

・責任役員：柳川瀬一美

・総代：白戸淳一（北海道）

青山昌伸（東海）

迎田展孝（関西）

・顧問：須田 剛



## 開祖語録 ダイジェスト

1977年9月  
指導者講習会



私は権威主義者ではありませんから、「管長の鶴の一声で決まる」式のやり方は嫌いです。ましてや私をダシに、「俺の言うことは管長命令と同じである」は、もっと嫌いです。

君らが納得し、「なるほど」と思えるものになかったら、聞きかじりの「そうだ、そうだ」なんて意味がない。また、本物でないものは長続きしないのです。

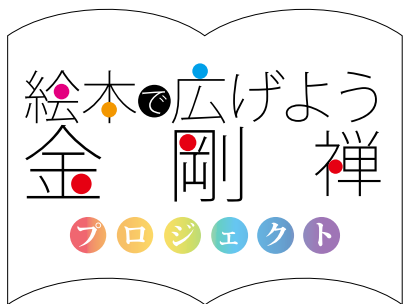
人間らしい人間でありたい。そうした欲求を持つとも思わないなら、ここにおつてくれなくていいんだぞ。今、少林寺拳法が成功している最大の理由は、「少林寺拳法をやること」によって、人間が少し変わってきた、そうした現実があるからじゃないのか。一挙には無理にしても、せっかくだからやるなら、極力高いところに目的を置いて、そこへ一歩でも近づく努力をすべきである。

同じことをしても、反対方向へ歩いていく人もいます。いつの間にか、体育会的、武道家的存在になって生涯を送る、そんなことにならないでほしい。君らに聞きたいが、上手

# 一人が二人に、二人がいつか十人に、 そう願ひ、少林寺拳法は動いている

に拳を振り回したところで何なんだ？ そのことで、人としての人生のどこが、どう変わるだろう。ある時期、ある人たちからだけは、「あの人はすごい」と言われるかもしれない。

……でも、少林寺拳法はそこを脱皮し、もつと違うものをつくり出そうとしてきた。われわれのような、勉強や考えることの苦手な人間には、あまりに高邁な理想を掲げた難しい挑戦かもしれない。けれど、そういう志を持ったグループがあつたついでに、君らも思わんか。己だけの正義や理屈を唱えるのはいやらしいだけだが、半ばは他人の幸せも、よその民族の幸福も考えられる人たちが、一人ずつ一人ずつ増えていって、またそうした人間を育てる生き方をして、すばらしい意味ある日々につながる人生が開ける。一人が二人に、二人がいつか十人に、そう願ひ、今日の少林寺拳法は動いている。他に影響を与えるものを持つている。他が協力してくれるものを持つている。ならば、金魚の糞にとどまるな。



讃岐白鳥道院  
道院長 田中 豊

子どもたちもよく覚えていて、「はい、今から絵本タイム！」の声かけをすると、その子は一番に本棚に走っていきます。心がけていることは、1ページ1ページの絵と言葉を大切に、読み手は表情や声色も豊かに登場人物になりきって演じる、子どもたちの感想を遮らず、否定せず、共感すること。そして、読み手も感動したことや考えたことを素直に子どもに伝えること。技がうまくいかなかった子どもも笑顔になる、絵本の魔法です。

## 絵本の世界は魔法の世界

当道院には、現在200冊を超える絵本が置いてあります。これらの絵本のほとんどは、特別支援学校教員として30年間勤めていた絵本好きの妻からの寄贈によるものです。

読み聞かせは、1回に1冊、その日の子どもたちの修練の様子を見て決めています。概ね月に1~2回程度のペースです。どの絵本を読むかは子ども主体で、低学年の子どもから順番に、自分の好きな絵本を1冊選んでいくようにしています。次は自分の番であることを

### 最近読んだお薦めの絵本

◎おしっこちょっぴりもれたろう

作・絵：ヨシタケシンスケ  
出版社：PHP 研究所



さまざまな人との出会いの中で、誰にもその人にしか分からない困ったことがあるのだな……としみじみと考える「おしっこちょっぴりもれたろう」君のユーモアがあふれるお話。子どもたちの悩みを軽くしてくれるだけでなく、他者の困り感に気づく感性について大人も考えさせられる、笑顔になる絵本です。

## 伝え残すこととは……この修行の道

人生に限りがあることを意識し始めたのは、50歳を目前とした約10年前のことである。振り返ってみれば、自分の拠り所としてきた少林寺拳法を主行とするこの道に、自分は生活の多くの時間を割いてきた。

自分を見つめ直してみると、演武や技がうまくいわけでもなく、金剛禅の教えに精通しているのでもなく、金剛禅運動を部外へ積極的に展開しているとも思えなかった。それでも、この道から離れることなく、また自分は金剛禅の修行者だという自負を持っている。だから一人の門信徒として、何が「伝え残せる」かを考えるようになった。そして、「僧階教本」に着目し、勉強を始めたのはそのころからである。

「技」には自分の性格や考え方が滲み出てしまふ。易筋行は技の修得を通じて、実は自分と向き合っているのだ。「技」⇓心(精神)⇓影響して変わるだけでなく、心の中で考えていることから「技」に影響し易わる「心(精神)⇓技」という双方向性を持つ身心一如(拳禅一如)の修行である。そして、われわれの修行は、双方向性を持つ修行を成立させる仕掛けとして「組手主体」がある。

組手主体の修練は、二人一組で行うという形態上の意味だけではなく、相手と対峙するところから始まり、異質な二人が「一つ」になる身心一如の修行であり、技を通してお互いを分かち合う身心の交流、調整、調和といえる。皮膚で閉ざされた他人と区別される個体である自分の肉体と精神の調和、自己確立という、楽しくもあり厳しくもある自分の真摯な修行を前提として、異なる身心のぶつかり合いによる調和へ向けた努力に意義がある。そこに、安易な馴れ合いでも、逆におのれの我を通すことでもない、われわれの求める身心一如の修行の世界がある。

それが見えなくなる。われわれが求めているのは、生きがいのある人生を過ごす「技」であり、それを支える生き方(思想)なのだ。少林寺拳法の技法修得は、修行の手段であり目的ではない。自分の身につけた形や考えはなかなか変わるものではなく、時間がたつと元に戻ってしまうことが多い。だからこそ、法話や「教範」「金剛禅読本」「僧階教本」による問法修学や社会の出来事を絶えず問い、考え、自分のものにするしかない。

少林寺拳法の技が好きで技を知りたい、うまくなることを第一にする人にとって、「僧階教本」の勉強をすることは、金剛禅の教えを知り、自分のものとするのが二義的なことと思えるかもしれない。

技術と思想は別であり、生き方は自分の心にある、自分はそれに沿って技術を利用する、楽しんでいけるのだという考えで少林寺拳法に向き合ったときから、少林寺拳法の特徴である身心一如の人間観とは遠くなってしまい理解することはできず、技術の底に考えや想い、思想があ

そうすると、その人の質の変化が目に見えて分かるようになる。少しづつかもしれないが、着実に変わることができるのである。自分が変わったと実感できたときはうれしくてしかたがない。そして教えた相手が、よくなったと感じられたときの喜びは、それ以上である。

そのようなわれわれの修行を、できるだけ多くの同志と守り深め伝えていく、それが今の私が伝え残したいと思っていることである。

# わたしの 工夫

第16回

道院運営へのヒント・・・  
もって道院の活性化、拳士の  
育成につなげていこうという  
コラムです。

今回の工夫を  
教えてくれたのは・・・



ひがしおおさか ことさか  
大阪府・東大阪小阪道院  
くろだひろこ  
黒田裕子道院長

「何事にも自分の可能性を信じて挑戦する」——これが指導のモットーです。学ぶことの楽しさを感じて、一人一人が能力を伸ばし、人生を豊かにしてもらいたい。そのような思いで、皆が心一つにして共に修行に励んでいます。

一人ではできないことも、皆で頑張り、できるようになれば、喜びが倍増します。

「この練習はしんどい。けど楽しい!」と感じてもらえる、そんな指導を心がけています。



諦めず取り組むよう声がけします。

## 工夫1 修練前は、遊びながら体力づくり

暖かい時期はラダー、寒い時期は縄跳びで遊びの要素を取り入れ、楽しく体力づくりをします。学校の授業の予習も兼ねて、二重跳びやハヤブサなどに挑戦したり、3分間跳びなど、



## 工夫2 ノートへのメモ取り

技術修練のあとは、技のポイントや指導者からのアドバイスをメモに取ることを習慣づけています。



## 工夫3 学科や僧階科目の勉強会

学科の勉強に加え、16歳以上の有段者には、僧階も紹介し、レポート作成の勉強会を行っています。中拳士の女子高生も僧籍に編入して、毎回、私と一緒に大阪府教区の研修会に、元気に参加しています。

## 工夫4 外部へのアピール

2009年から年1回、地域の小学校の課外学習として約80分間の少林寺拳法講座を行っています。きっかけは、当時、門信徒さんがこの小学校の事務員をしており、同時期に、当道院の顧問である市議会議員の方から、「小学校の課外授業の講座をやってみませんか」と声をかけていただき、以来、毎年呼んでいただいています。

技術では、「少林寺拳法健康プログラム」のときのような、大きな声出しと、突き蹴りなどで体を動かし、また、教えでは、「脚下照顧」をはじめとする、日常生活における大切なことをお話しています。



担当／飯野貴嗣

道院長

vol.52

## 元気の素



愛知県・名古屋港道院  
道院長 桑原誠司 (42歳)

## バトンを引き継ぐ

小学生のころ、引っ込み思案な私に、「少林寺拳法をやってみようか」と、初代道院長の板垣應久吾先生に声をかけられたことが入門のきっかけでした。それ以来35年、途中就職で休眠した時期もありましたが、健康診断で運動不足を指摘されたことを機に復帰し、修行を続けております。

私が三段の許可を受けたところから、先代の森繁先生より、「四段を取得したら道院長を交代してくれないか？ 運営には一切口出ししないし、好きなようにやればいいから」と何度か言われ、2014年4月、バトンを引き継ぐ決心をし、道院長になりました。

## 病を乗り越えて

道院長になって3年がたったとき、右手拇指の皮膚がんを告知され、右手拇指を半分以上切断しなければなりません。さらに、入院中に代務をお願いしていた森繁先生も倒れられ、これからどうしようか本気で悩みました。道院

長を交代してもらい、少林寺拳法も辞めようかと考えるときもありました。しかし、門信徒や保護者から、「完全復活、待っていますよ」「先生の道場で、少林寺拳法をやりたい」と言われたときは心の底から嬉しく、そしてもう一度頑張ろうと決意を新たにしました。そして昨年、大導師／大拳士／五段の目標を達成しました。金色の線が入った袖章を着けたときは、やはり嬉しかったです。人生はいつどうなるかわかりませんが、諦めず挑戦し続ければ何とかなるものだと実感しました。

## いつでも使える専有道場として

私の経験から、道場はいつでも自由に使えるようにしています。それは、私が複雑な家庭環境の中で育ち、精神的に弱いところもあったのですが、板垣先生から、「何かあったら名古屋港道院へ来い。お前は一人じゃない」と言っていたことが印象深く残っていて、今でも続けている原体験だと感じているからです。

そのため名古屋港道院では、現役・休眠にかかわらず門信徒がいつでも自由に使えるよう開放しております。皆の心の拠り所として、皆の専有道場を、これからも守っていきたいと考えています。

## 金剛禅の指導者に

道院では、修練の合間の5分程度、私の経験談や時事問題を取り上げ、その日の道場内の雰囲気を見ながら法話をします。堅苦しい話ではなく、気楽に聞ける、分かりやすい法話をするように心がけています。保護者の方から、「先生

の話が好きだと子どもが家で話していますよ」とLINEを頂くときは、非常に嬉しく思います。これは板垣先生から、道院長は門信徒によい影響を与え、心に残る存在にならなければならぬと教わったからです。

仕事を持ち、家庭を守りながら道院運営を継続していくことは、決して楽ではないと思います。しかし、今からの時代にこそ開祖の教えが必要だと思えます。そのためには、技術中心ではなく、教えと技術が調和した道院長を目指してほしいと思えますし、私自身もそのようになるよう、現在も日々修行に励んでおります。道院幹部の皆さん、少林寺拳法の指導をするだけではない、金剛禅の指導者(布教者)を、共に目指しましょう！



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



本山

### 開催報告

#### ● 本山公認教区講習会(派遣講師)

〔12月8日〕神奈川県教区(須田剛・前田保男)

〔1月19日〕京都府教区(春日部裕樹・川上鐘成)

〔1月26日〕兵庫県教区(須田剛)

〔2月2日〕千葉県教区(野口雅司)・静岡県教区(高辻吉治)

〔2月9日〕岡山県教区(宇都宮俊二)

#### ● 教区研修会

〔1月25日〕青森県教区

〔1月26日〕群馬県教区、埼玉県教区、大阪府教区

〔2月2日〕和歌山県教区

〔2月16日〕長野県教区

#### ● 小教区研修会

〔10月23日〕東京第五小教区

〔12月1日〕福岡北九州小教区

〔1月8日〕岡山倉敷小教区

〔1月19日〕東京第八小教区、兵庫川辺小教区

〔1月20日〕東京第六小教区

〔1月26日〕東京第三小教区

〔2月2日〕東京第十六小教区、神奈川県西湘小教区

〔2月9日〕青森南部小教区、福島県中小教区

〔2月16日〕北海道胆振苦小教区、栃木東部小教区

川西南道院

### 川西南道院設立35周年記念祝賀会

2020(令和2)年1月19日、川西南道院設立35周年記念祝賀会を開催いたしました。

兵庫県教区の役員の方々や川西南道院関係者をはじめ、川西市、猪名川町の関係者、兵庫県連盟の役員の方々にもご臨席いただき、盛大な祝賀会となりました。

祝賀会においては、鈴鹿成正道院長より、道院設立の経緯から現在までの歩みについて説明



し、さらに道院の歴史を振り返るショートムービーを上映し、会場にいられた皆さんと思いに浸りました。

次は40周年を目指し、門下生一同で、鈴鹿道院長の教えである「組織と人を支えられる人間であれ」との教えを胸に、頑張っ

てまいります。(奥西千秋)

### 山口県教区

#### 第8回

#### 山口県教区講習会

2月16日、山口市維新百年記念公園武道館において、8回目の山口県教区講習会が開催され



ました。

本山教師に鈴木義勝先生をお迎えし、教区講師に長田正紀先生、教区講師補に渡邊晴夫先生、古屋譲先生という講師陣でした。

講義では、金剛禪の原点に迫る開祖の体験・思いに触れ、若い受講者たちは新鮮な感動を覚えていました。

易筋行では、日頃学べないような修練や、講師も含めて全員が30秒自己紹介し、一技ごとにローテーションするという企画もあり、とても充実していました。

参加者それぞれが、笑顔と歓声の中、気持ちよく受講できました。また他教区からの参加者も含め、よい交流ができました。(古屋 譲)

### 川崎西道院 40周年記念祝賀会

2月24日、金剛禪総本山少林寺川崎西道院設立40周年記念祝賀会を開催いたしました。

近隣の道院長・支部長、そして拳士の方、また川崎西道院に関わりのある道院長・拳士など法縁の皆様にお越しいただき、80名超えの盛大な祝賀会となりました。

最後に、今後も少林寺拳法の教えを地域社会に、この法縁を大切にしながら人づくりによる国づくりに邁進していくことを誓い、川崎西道院一般拳士全員によるエンターテイメントにて幕を閉じました。(中川貴司)



第一部では、川崎西道院拳士による少年部基本演練の披露のほか、一般拳士・道院長による演武の披露をいたしました。

第二部の祝賀会では、オープニング映像、40年の軌跡を振り返る映像をご覧いただき、多くの方々を改めて交流することができました。

最後に、今後も少林寺拳法の教えを地域社会に、この法縁を大切にしながら人づくりによる国づくりに邁進していくことを誓い、川崎西道院一般拳士全員によるエンターテイメントにて幕を閉じました。(中川貴司)

## 2020年2・3月度 認証

### ●設立

■2020年3月1日付

札幌すみかわ道院

我妻 義人

### ●交代

■2020年2月1日付

川崎西道院

中川 貴司

### 僧階昇任者

#### 権大導師

■2020年4月1日付

栗原 宗一郎(横浜戸塚道院)  
宮原 健一(横浜戸塚道院)  
永井 聖二(横浜本郷道院)  
嘉瀬 恒夫(東戸塚道院)  
増茂 洋(東戸塚道院)  
岡村 和明(東戸塚道院)  
五十嵐 文夫(富山婦中道院)  
黒瀬 一輝(愛知高上道院)  
山添 和重(三重多気道院)  
木田 要(神戸兵庫道院)  
國富 佑治(本部道院)  
小野 哲(善通寺中央道院)

#### 中導師

■2020年2月1日付

谷 亮太(大阪千代田道院)

#### 権中導師

■2020年4月1日付

栗原 俊樹(江別大塚道院)  
佐藤 剛司(北海道余市道院)  
相馬 弘宣(茨城牛久道院)  
澤田 良典(川越道院)  
加藤 恵子(草加道院)  
飯野 千鶴子(東松山道院)  
須藤 裕樹(埼玉白岡道院)  
石上 経子(埼玉本庄道院)  
向後 嘉和(東京東小岩道院)  
岸本 守生(板橋菩提樹道院)  
杉浦 克代(東京保谷道院)  
難波 秀治(東京飛鳥道院)  
鈴木 宏和(東京南品川道院)  
楠 幸太(東京滝野川道院)  
麻場 才一(厚木道院)  
深井 正樹(相模林間道院)  
寺岡 真一(鯖江北野道院)  
城戸 隆(春江南道院)

小山 宏己(佐久平南道院)  
林 宏治(美濃関道院)  
佐藤 利道(沼津白銀道院)  
金子 年行(伊豆菰山道院)  
落合 孔孝(名古屋瀬古道院)  
生駒 道管(愛知梅坪道院)  
牧村 好広(名古屋太子道院)  
脇 寛(四日市道院)  
山城 勝也(三重津東道院)  
福田 高弓(神戸西神道院)  
福田 幸永(檀原中央道院)  
額田 充隆(和歌山宮道院)  
森 春樹(広島毘沙門道院)  
濱口 里佳(本部道院)  
井上 正昭(福岡西道院)  
原田 宇一(八幡永大丸道院)  
橋本 正浩(八代白鷺道院)

#### 少導師

■2020年4月1日付

富樫 岳郎(上士幌道院)  
永田 哲弥(恵庭道院)  
中村 宙巨(八戸南郷道院)  
長谷川 正人(秋田西道院)  
石山 洋佑(秋田西道院)  
佐藤 吉雄(秋田西道院)  
奥田 大貴(秋田西道院)  
泉 哉美(秋田西道院)  
村岡 道(大館三ノ丸道院)  
菊間 真帆(渋川道院)  
小松 奈央(群馬太田道院)  
伊藤 晋吾(東武大宮道院)  
半田 勇(朝霞道院)  
京藤 加代子(千葉茂原道院)  
小湊 俊朗(板橋菩提樹道院)  
梅原 紀代(下高井戸南道院)  
大脇 輝也(西東京保谷道院)  
岡村 光展(東京西品川道院)  
海沼 晴申(東京西品川道院)  
浦田 紀子(金沢文庫道院)  
佐藤 裕子(川崎南生田道院)  
小川 莉央(相模原南道院)

菅原 愛(秦野東道院)  
菅原 慶(秦野東道院)  
森永 昭彦(横浜名瀬道院)  
内田 佳甫(相模林間道院)  
小川 一弘(川崎稲田道院)  
小林 絵巳彦(横浜大六天道院)  
進藤 史朗(小松南部道院)  
小林 裕直(山梨郡内道院)  
亀井 貴司(山梨郡内道院)  
大西 哲史(高山東道院)  
小笹 泰彦(沼津香陵道院)  
梅原 成起(沼津香陵道院)  
関谷 進吾(伊豆長岡道院)  
齊藤 慧大(伊豆長岡道院)  
大塩 和美(沼津白銀道院)  
稲葉 祐太(富士西道院)  
小早川 久幸(豊橋道院)  
竹内 咲紀(豊橋道院)  
北恵 祐子(安城文山道院)  
武内 まりな(尾張旭道院)

川田 信人(名古屋徳道院)  
刈谷 農太郎(名古屋高針道院)  
坂本 道徳(尾張小牧道院)  
山下 翔悟(愛知浄水道院)  
伊藤 依子(名古屋中村道院)  
田邊 孝芳(四日市道院)  
山田 直樹(四日市道院)  
堤 泰友(三重白山道院)  
原田 明典(三重桑名道院)  
大澤 秋男(近江八幡道院)  
岩田 孝一(滋賀守山道院)  
谷内口 稔(滋賀守山道院)  
曾根 健司(滋賀守山道院)  
安藤 朋子(滋賀守山道院)  
久保 卓郎(滋賀守山道院)  
宮地 典子(滋賀守山道院)  
寺田 友哉(滋賀守山道院)  
松永 康志(大津坂本道院)  
岡部 耕一郎(大津坂本道院)  
若林 寛人(甲賀甲南道院)  
金山 陣(洛南道院)  
橋本 剛(京都修学院道院)

竹野 裕美子(京都修学院道院)  
中田 竜史(東大阪孔舎衛道院)  
大塚 隼斗(豊中岡町道院)  
高原 佳恵(豊中岡町道院)  
岡本 敏典(西脇道院)  
津川 真理子(神戸六甲道院)  
納多 善一(西宮甲武道院)  
前島 龍仁(龍野北道院)  
橋本 納(龍野北道院)  
藤堂 優輝(龍野北道院)  
竹田 一二三(龍野北道院)  
眞鍋 昭(龍野北道院)  
江口 嘉奈(龍野北道院)  
酒井 智仁(龍野北道院)  
近藤 晃尚(尼崎西武道院)  
松原 光男(尼崎西武道院)  
山崎 峻輔(大久保山手道院)  
池田 雅隆(大久保山手道院)  
余部 健太(大和真菅道院)  
岡本 雅行(大和真菅道院)  
秋口 政俊(鳥取東道院)  
竹内 利恵(倉敷道院)  
長畑 昌江(倉敷道院)  
中込 敏行(福山南道院)  
平岡 慶一(宇部道院)  
伊藤 広子(宇部道院)  
大賀 香奈(上宇部道院)  
吉本 泰之(大塚道院)  
川上 貴也(大塚道院)  
正木 清貴(徳島清東道院)  
坂井 克己(丸亀飯野道院)  
野村 忠昌(中曾根道院)  
戸嶋 潤一(福岡正法道院)  
山本 京子(福岡正法道院)  
永淵 達也(八幡永大丸道院)  
白石 幸広(八幡永大丸道院)  
濱田 高太郎(八幡永大丸道院)  
濱田 周作(大分府内道院)  
平原 通利(薩摩伊敷道院)  
川野 真理子(鹿児島種子島宝來道院)  
梶山 亮太(鹿児島霧島道院)  
梶原 智宏(那覇北道院)

### お布施

▶株式会社四国遍路	50,000円
▶福岡西道院	20,000円
▶南中野道院 永井比佐志	10,000円
▶亀有道院 中林純一	10,000円
成澤裕喜男	10,000円
▶東京大塚道院 藤田昌彦	10,000円
仲井由夫	10,000円
▶豊田末野原道院 服部俊美	10,000円
▶善徳寺門信徒	10,000円

▶千葉県教区	5,000円
▶岡山真庭道院 黒田靖	5,000円
<b>公認講習会</b>	
▶千葉県教区	30,000円
▶静岡県教区	30,000円
▶京都府教区	30,000円
▶兵庫県教区	30,000円
▶岡山県教区	30,000円
▶山口県教区	30,000円

### 訃報

**佐々木 繁士** 尾張瀬戸道院元道院長、第134期生、大導師正範士八段、2019年12月29日、満77歳

**小山 繁** 京都太陽が丘道院元道院長、第281期生、大導師正範士七段、2020年2月3日、満73歳

**宮幡 義友** 山梨郡内道院道院長、第313期生、大導師正範士七段、2020年2月15日、満66歳

**岡田 孝** 玉島道院元道院長、第177期生、大導師大範士八段、2020年3月5日、満78歳

**高野 實** 京都西道院道院長、第218期生、大導師正範士七段、2020年3月12日、満72歳

編集後記▶「感染しない、させない。そのために行動を変えよう」。これが今、最も優先すべき幸福運動です。▶今年1月に新型コロナウイルス感染がわが国で報道されて以来、4か月が経過しました。4月7日には、日本政府から「緊急事態宣言」が発令され、日本国内の道院・支部はもちろんWSKO(少林寺拳法世界連合)加盟国の多くの支部でも軒並み活動休止に追いやられています。金剛禅でいえば、道院という場の「ぬくもり」が地域から消えかけようとしています。▶確かに、ウイルス感染拡大防止のためには、国民一人一人が「不要不急の外出自粛」「人との接触回避」をするしかありません。しかし、このような事態にあっても、門信徒とのつながりを絶ち切らさないよう、例えばSNSを駆使するなどして、道院の「ぬくもり」を発信し続けている力強い道院長がいます。そうした方の発信は、一条の光明として私たちの心を照らし、温めてくれています。感謝。合掌(い)

表紙▶三野智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに「あ・うん」の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/> 管長法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅

●お詫びと訂正

「あ・うん」第69号(2020年3月1日発行)9ページに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。  
誤)近藤悦郎→正)近藤悦朗

あ・うん | vol. 70  
金剛禅総本山少林寺広報誌 2020 皐月・水無月

2020年5月1日発行(奇数月1日発行)

発行人: 大澤 隆

発行所: 金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人: 飯野貴嗣

印刷・製本: 株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌「あ・うん」追加発送について ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10~20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎月ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山市教課にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail: [aun@shorinjikempo.or.jp](mailto:aun@shorinjikempo.or.jp)

# 一期一笑



イラスト/大原由軌子

さつぼろしのろ 札幌篠路道院 道院長 矢部博文  
やべひろふみ

## 少導師補任は亡き師への恩返し

このほど、補任条件を満たす門信徒に僧籍編入を勧め、10名の少導師が当道院に生まれました。ふだん、門信徒に対して、金剛禅運動を理解し共鳴してもらいたいと願っております。さらに、僧階補任者が増えることで道院の質が向上し、私自身も自己の研鑽と指導内容を見つめ直し、金剛禅運動に対する姿勢を革新させていく機会につながると考えました。

補任された門信徒にとって、輪袈裟の重みはあるようです。表情や所作に、少しですが成長を感じます。また、僧階補任者には、まず絵本の読み聞かせをしてもらっております。当初、抵抗感があつたようですが、その価値を伝えたと、継続してくれています。集合をかけなくても、少年部の拳士たちが絵本を持った拳士の周りに自然に輪になって集まり、易筋行よりも集中して聞いている姿に手応えを感じているようです。

また、私が高校少林寺拳法部の監督を兼任している関係もありますが、高校生が道院の修練にも参加してくれています。修練や新春法会、合宿、納会などの儀式行事を通じて、拳士の交流が生まれている

ことを嬉しく思います。道院の拳士が高校生になると少林寺拳法部に入部し、道院へも兼籍し、卒業後は道院に戻るといった、道院↓部活兼道院↓道院という流れが生まれることで、卒業後も少林寺拳法を継続してくれるよう期待しています。その中から、次世代の指導者が育ってくれることも願っています。

私は、小学校3年生のとき入門し、師から強い影響を受け、少林寺拳法部のある高校を選び、卒業後は日本少林寺武道専門学校(当時)に進学、その後、カナダの支部でお世話になり、2011年より道院長になりました(小学生のころには「道院長になる」と言っていたようです)。

私自身が少林寺拳法を通じて経験させていたただいたこと、金剛禅の教えから学び感じたことを、微力ながら後輩たちへ伝え、少しでもよい影響を与えることのできる人間になれたらと考えています。僧籍編入を勧めるのもその一環です。

これからも、亡き師の意思を承継するという責任と、報恩の思いを懐きながら道院長を続けてまいります。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail: [aun@shorinjikempo.or.jp](mailto:aun@shorinjikempo.or.jp)



宗門の行としての少林寺拳法

## 守者と攻者を行じる

相対演練は、攻撃を行う攻者と、防御・反撃を行う守者が、互いに役割を入れ替わりながら行われる。一人の人間が攻守双方の技法を学び、修得していくことは、相手の身になって考え、行動する訓練にもなっている。

組手主体の修練を深めていくことで、他者との人間関係を良好にし、よりよく生きるための能力が養われるのである。



### 龍王拳 卷拔（両手）

金剛禅総本山少林寺公式サイトで動画をご覧いただけます。

金剛禅

検索

撮影／志村 力 文／富田雅志 演武者／中川 純 正範士七段・富田雅志 大拳士六段



SHORINJIKEMPO  
少林寺拳法